

## 1月29日 片葩小ウィークリーSPの様子

1月29日（月）、この日は片葩小学校で5人のSPさんが活動してくれていました。

横井SPは、1年生の音楽の授業で支援をしていました。1年以上、週2回の活動を続けている横井SP。一人の子どもにしっかり寄り添いながら、周りの子の様子も気にかけてくれています。担任の先生とコミュニケーションをとりながら、楽器の準備をしたり子どもたちに声をかけたりしていました。「これ、先生が2人いるみたい……。」と思いました。「SPさんがいるから、より質の高い授業ができる」と、以前現場の先生が仰っていたことがあります。横井SPの支援はまさにその通りでした。



酒井SPは、1年生の生活の授業で、鬼のお面づくりの支援をしていました。酒井SPはとにかく積極的。「ここはこうじゃない?」「どうする?」と、子どもたちに自分から声をかけていました。積極的に動いて、声をかけて、子どもの反応を見て、修正していく。学生のうちから、子どもと関わる力をどんどん磨いています。



川端SPは、3年生の英語の授業で支援をしていました。この日、川端SPを見てびっくりしました。雰囲気は夏に比べてぐっと良くなっていました。先生のまとう“雰囲気”を、子どもたちは敏感に察知します。以前よりずっと穏やかな雰囲気になった川端SP。きっと普段の活動で「子どもに寄り添おう」と意識して、丁寧に関わってくれているのではないかと思います。



宮崎SPは、6年生のなわとびの授業で支援をしていました。高学年になると、ほとんどの子は自分で課題に取り組めるようになります。宮崎SPは、声をかけるのをぐっと我慢していました。そして、子どもが「見てた!？」と声をかけてきた瞬間に、笑顔で「見てたよ!」と応えていました。大人でもそうですが、“見ていてくれる”と嬉しいものですね。「何もできていないな……」と思うSPさんもいるかもしれませんが、“見守る”ことも実は子どもたちの安心感に繋がっています。



時間的な都合で、残念ながら池之迫ＳＰ支援の様子を見ることはできませんでした。池之迫ＳＰも、夏休みの「わくわく算数教室」を経てウィークリーＳＰとして活動を始めました。「活動はどう？」と聞くと、「楽しく活動できています」と芯の通った声で答えてくれました。一見クールに見える池之迫ＳＰですが、実は内にとっても熱いものを持っていると私は感じています。また次回、様子を見させてくださいね。



1月も後半に入り、多くの大学が春休みに入り始めました。「この機を逃すまい」と、各小中学校ではたくさんのＳＰさんが積極的に活動をしてれています。「2月・3月の春休み期間だけでもウィークリーＳＰとして活動させてほしい」「せっかくの春休みだから、週2回活動したい」「時間がある今だからこそ、他の学校でも活動してみたい」という、意欲・意識の高いＳＰさんばかりです。“感心”の一言につきます。昨今、教員採用試験の倍率が下がっており、教師を目指す人も少なくなっているとよくメディアで報道されています。それでも、「教師になりたい！」「現場に出る前に学びたい！」と東浦町のＳＰ活動に飛び込んでくれる大学生がたくさんいるのを実感しています。そんな意欲の高いＳＰさんを、全力で応援・サポートします！

